

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分  
 【発行日】令和 2 年 3 月 5 日 (2020.3.5)

【公開番号】特開 2018-151319 (P2018-151319A)  
 【公開日】平成 30 年 9 月 27 日 (2018.9.27)  
 【年通号数】公開・登録公報 2018-037  
 【出願番号】特願 2017-49011 (P2017-49011)  
 【国際特許分類】

G 0 1 N 15/14 (2006.01)

G 0 1 N 37/00 (2006.01)

B 0 1 J 19/00 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 15/14 A

G 0 1 N 37/00 1 0 1

B 0 1 J 19/00 3 2 1

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 1 月 24 日 (2020.1.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

液体が通流する流路と、  
 該流路を通流する前記液体を外部に吐出する吐出部と、  
 を少なくとも備え、  
 前記流路及び前記吐出部は、積層された基板層に形成され、  
 前記吐出部は、前記基板層の片側の層にのみ形成されているマイクロチップ。

【請求項 2】

前記吐出部を吐出方向から正面視した際の形状が、前記基板層に対して垂直方向に左右対称な多角形である、請求項 1 に記載のマイクロチップ。

【請求項 3】

前記形状は、三角形、四角形、及び六角形からなる群より選ばれるいずれか一つである、請求項 2 に記載のマイクロチップ。

【請求項 4】

前記吐出部を構成する一辺の長さは、 $50\ \mu\text{m}$  ~  $300\ \mu\text{m}$  である、請求項 2 又は 3 に記載のマイクロチップ。

【請求項 5】

前記流路は、該流路を通流するサンプルを光学的に検出する検出エリアを更に有し、  
 前記検出エリアから前記吐出部までの流路深さは、一定である、請求項 1 から 4 のいずれか一項 に記載のマイクロチップ。

【請求項 6】

前記流路は、前記検出エリアに接続するテーパ部を更に有する、請求項 5 に記載のマイクロチップ。

【請求項 7】

前記吐出部に連通し、前記吐出部から吐出される液滴を空間的に覆う空洞を更に備える、請求項 1 から 6 のいずれか一項 に記載のマイクロチップ。

## 【請求項 8】

前記吐出部から前記空洞の端までの長さは、0.2 mm以上である、請求項 7 に記載のマイクロチップ。

## 【請求項 9】

微小粒子の測定に用いられる、請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載のマイクロチップ。

## 【請求項 10】

請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載のマイクロチップが搭載された微小粒子測定装置。